# DX時代の企業と情報システム〜次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割とイノベーションを生み出す超上流作法【会場】(4124147)

DX時代の企業と情報システムにおいて大きく2つの視点から学びます。まずは次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割について、企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。次にイノベーションを生み出す超上流作法について、新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。



# 主な内容

## ■受講形態

会場のみ(オンラインなし)

■テキスト

当日配布

■開催日までの課題事項

特になし

DX時代の企業と情報システムの関係において大きく2つの視点から学びます。

まずは企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。

次にイノベーションを生み出す超上流へのアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

### ◆DX時代の企業と情報システム 1

~次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割

DXという言葉を日常的に聞くようになりましたが、ユーザー企業やその情報部門において、DXとはどのような意味や範囲をさすのでしょうか。

ユーザー企業の経営層やユーザー部門からも最新テクノロジーを活用した業務変革の期待をされることがありますが、流行りのAIや高価なパッケージソフトを導入すれば、IT先進企業に生まれ変われるものではありません。

ビジネスとテクノロジーの両側面を理解し、距離(関係性)を埋めるのが情報システム部門(あるいはDX推進部門)の大きな役割です。 従前の経験や勘などではなく、データとアルゴリムによって、ビジネスの意識決定や課題解決などを行うにはどうしたらよいかー。 次世代型のビジネスプロセスエンジニアとしての役割を学びます。

### ◆DX時代の企業と情報システム2

~イノベーションを生み出す超上流作法

デジタイゼーションとデジタライゼーション。言葉は似ていますが、意味は大きく異なります。

DXを推進するにあたり、必要なのはデジタライゼーションです。

それでは、これに必要なスキルは何でしょうか。

問題解決や生産性向上のあらゆる場面において、ロジカルシンキング(論理)はビジネスパーソンには当然必要です。

そこにさらに、新しいことを考え出す感性、イノベーションを生む創造力が不可欠になります。

本講座では、ビジネスイノベーションのしくみと新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を手を動かしながら学んでい きます。

### ■参加者の声

考え方と事例を交えて話していただいたため、とても理解しやすかった。

ビジネスプロセスエンジニアに求められる思考法を、非常にわかりやすく教えてもらえる。

実践したワークも身近なテーマを基にしたものが多く、どんなバッググラウンドを持つ人でも理解しやすい内容と感じた。